

なし管理情報 NO.4

令和4年5月16日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター

1 生育状況

- ・「幸水」の結実は、平年並み～やや良。※長果枝は少ない傾向。
- ・「豊水」の結実は、平年並み～やや良。

2 気象災害

- ・4/17の低温で、一部園地で凍霜害が発生（花卉の褐変のみ、結実には影響なし）。
- ・5/2～3の降雷でキズ果発生（摘果で対応できる程度）。

3 病害虫防除

<発生状況>

- ・黒星病：芽基部病斑の発生は0.8%と少ない（5/9時点、昨年発生を確認した10園地で調査）。
春型病斑は、5月中旬頃から確認。発生量は前年、平年に比べ多い。

- ・木材腐朽菌：萎縮症状がやや多い。
- ・赤星病：葉の病斑が多い。

<ポイント>

- ・下野方地区では、昨年度、黒星病の秋型病斑が近年では一番多く確認され、今年度は5月中旬に大部分の園地で発生が確認されており、収穫期の多発が懸念される。黒星病の芽基部病斑、春型病斑は、見つけ次第摘み取り、園地外で処分するとともに、以下の特散を実施する。
※今回の特散（赤字部分）は、R4防除暦に記載されていない特別散布となります。
- ・散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施し、散布ムラが生じないように丁寧に散布する。

1)薬剤防除

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫	実施日 (自己記入)
特散	5/22～24頃 (袋かけ直前)	ベルコートフロアブル 1,500倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病	
7	5/30～6/1頃 (袋かけ直前)	テランフロアブル 1,000倍 カスケード乳剤 2,000倍	350ℓ	黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症（胴枯病菌） ハマキムシ類、ハダニ類	
8 ※	6/7～8頃	オキシラン水和剤 500倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病	
9	6/15～17頃	ベルコートフロアブル 1,500倍 ダイアジバン水和剤34 1,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、 アブラムシ類、コナカイガラムシ 類若齢幼虫	

※ アブラムシ類の多発園では、ウララ DF（4,000倍、収穫14日前まで、2回以内）を加用する。カイガラムシ類の多発園ではアプロード水和剤（1,000倍、収穫30日前まで、2回以内、8回目、9回目と混用可）。

農業散布にあたっては、①ラベルを必ず確認し、②周辺の作物や住宅への飛散に注意して実施してください

2)黒星病対策

- 昨年度、下野方地区では、黒星病の秋型病斑が近年では一番多く確認されており、今年度、落葉からの孢子飛散による春型病斑の多発が懸念される。
- 園地をこまめに見回り、病斑を見つけしだい摘み取りを実施するとともに、天気予報を利用し散布間隔が開きすぎないように降雨前の防除に努める。

①耕種的防除（重要）

- 芽基部病斑や、果実、葉に発生する春型病斑（図1）は、ただちに摘み取り園地外で処分する。



図1 黒星病の病斑（左：健全な芽基部、中央：病斑のある芽基部、左：葉柄上の春型病斑）

②補正散布の徹底

- 薬剤がかりにくい園地周辺の補正散布を徹底する。

4 今後の管理

1)摘果

①予備摘果

- 満開後10～20日から開始し、5月下旬頃を目途に全品種の作業を完了する。

<残す果実の特徴>

- 残す果実は、果そう内に1果とする。
- 果梗が上～横向きで長くて太く、果形がやや縦長で大きく整っている果実（1番果以外の3～5番果あたり）を残す。
※「新水」「豊水」「あきづき」は、斜め～横向きの果実を残す（軸折れ防止）。
- できるだけ葉枚数の多い果そうの果実を残す。



図2 番果の数え方
(果そう基部から順に数える)

摘果時の果形

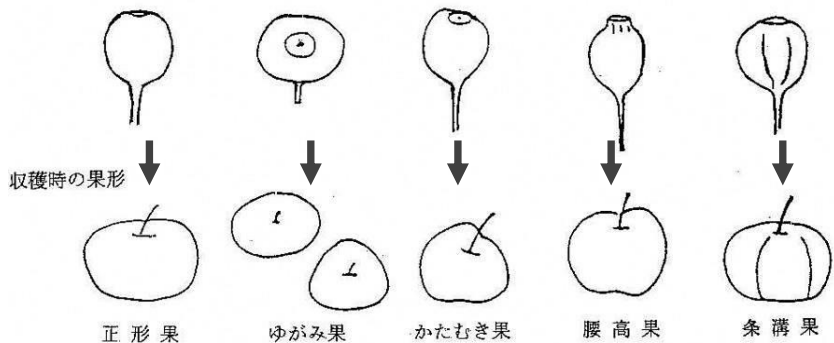


図3 幸水の摘果時と収穫時の果形（原図 長野県果樹栽培指針）

②仕上げ摘果

- ・下表を目安に行うが、樹勢の強弱によって着果量を加減する。

表 仕上げ摘果時の着果量

品種	仕上げ摘果完了時期	1 m ² 当たりの着果量	1 樹当たりの着果量 (3間植えの場合：5.4m×5.4m)
はつまる	満開後30～40日頃	9～10果	260～290果
筑水	満開後30～40日頃	12～13果	340～360果
なつしずく	満開後30～50日頃	11～12果	320～340果
幸水	満開後30～40日頃	9～10果	260～290果
豊水	満開後30～50日頃	11～12果	320～340果
あきづき	満開後30～40日頃	11～12果	320～340果
甘太	満開後30～50日頃	10～11果	290～320果
新高	満開後30～60日頃	8～10果	230～290果

2)新梢管理

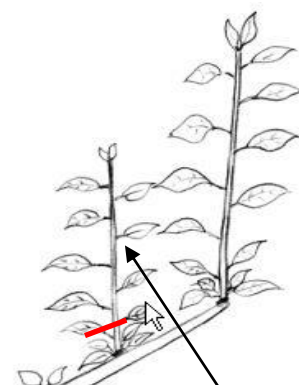
(1) 予備枝の管理

①目的

- ・先端の新梢伸長促進（優良長果枝の育成）
- ・短果枝の育成（次年度、着果させる）

②実施方法

- ・予備枝は、先端新梢1本を残して他は全て摘心する。
- ・果そう葉の無い新梢は、葉3～4枚残し、果そう葉のある新梢は、果そう葉を残して摘心する。



長い予備枝：この新梢を摘心

(2) 側枝の管理（摘心）

①目的

- ・短果枝の育成
- ・果実肥大の揃いを良くする

②実施方法

- ・処理時期：5月中旬～6月上旬頃（満開後30～50日頃）
- ・処理部位：側枝の基部～中央部
- ・処理方法：果そう葉の無い新梢は、葉3～4枚残し、果そう葉のある新梢は、果そう葉を残して摘心する。
- ・再処理：摘心後、新梢が再伸長した場合、随時かき取る。
(15cm程度で止葉ならそのまま可)



③注意事項（重要！）

- ・樹勢が低下している樹は摘心しない。
- ・30cm以上伸びた新梢の摘心は、樹勢を低下させる恐れがあるので行わない。

4) 「なつしずく」のジベレリンペースト塗布

- 「なつしずく」果梗にジベレリンペーストを塗布することで収穫盛期が1週間ほど早くなり、「幸水」との収穫競合を軽減させることができる。
- ペースト処理をしても果実品質や日持ち性に大きな影響はない。
- 処理前までに仕上げ摘果を完了する。

今年の「なつしずく」処理時期（満開30～40日後）
5月14日～24日頃 20～30mg/1果

5) 土壌水分管理

- 近年、管内では5月中下旬に5日以上連続した無降雨日が発生しやすい傾向にある。無降雨日が5日以上続いた場合、5～7日目に1回あたり20mm程度のかん水を行う。

5 農作業安全

- 5月下旬は30℃近くまで気温が上がる可能性があるが、体は汗をかくことに慣れていないため、熱中症のリスクが高まる。のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛ける。

<お知らせ①>

- なし管理情報をHPで確認できるようになりました。ご利用ください。
- 次号は、6月17日頃の発行を予定しています。



<お知らせ②>

- 黒星病の発生状況を把握するため、全園地について、5月19日、6月中旬、7月中旬、収穫直前、収穫中、10月中旬に発生状況調査を行います。
- 結果は、管理情報や講習会等でお伝えします。

<お知らせ③>

- 今年は赤星病、黒星病が例年より多く発生しています。ご自身で園地の発生状況の確認、経過観察をお願いします。次年度以降の防除対策の参考にさせていただきます。